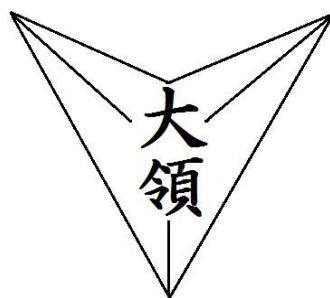


令和8年度
運営に関する計画



大阪市立大領小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、全体として落ち着いた学習環境のもと、児童が授業に集中して取り組む姿が見られ、対話的な学びの推進や言語活動の充実により、思考力・表現力の育成が進んでいる。また、体力面においては、昨年度の全国体力運動能力・運動習慣等調査の体力合計点においては、男女ともに全国平均を少し上回る結果となった。素直な児童が多く、学校に協力的な家庭も多い。地域の方々も献身的に学校を支えてくださっている。

一方で、いくつかの課題も明らかである。

まず、不登校在籍率が2.34%と大阪市平均（2.05%）を上回っており、継続的な支援体制の充実が求められる。本年度より、教育委員会による、校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）設置支援事業を受け、スペシャルサポートルームを設置することになった。スペシャルサポートルームの活用を軸に、関係機関との連携や個に応じた支援のさらなる強化が必要である。

学力面では、全国学力調査において、国語の平均正答率が全国・市平均を下回る状況にあり、また経年調査においても基礎的・基本的内容の定着が不十分な児童の増加が見られる。算数については、昨年度、算数科を研究教科として校内研究を進め、問題解決型学習を効果的に取り入れ、児童が課題に対して見通しを持ち、自分で考え、解決できる授業を展開した結果、一定の成果が見られるものの、学力の二極化や基礎学力の底上げが課題である。

対話的な学びの成果は一定程度見られるものの、その実感を十分に得られていない児童も多く、全ての児童に学びの充実感を保障する授業改善が求められる。個に応じた指導や補充的な学習の充実により、学力の底上げと学習内容の定着を図り、対話を通して学びを深めるとともに、確かな学力を身に付けることができる授業づくりを推進していく。その際、昨年度同様、スクールアドバイザーの指導を積極的に受ける。

さらに、読書習慣については、学年が上がるにつれて読書離れの傾向が見られ、読書を全くしない児童の割合も増加している。背景として、スマートフォン等の使用時間の増加が考えられ、情報機器との関わり方を含めた生活習慣の見直しが必要である。また、SNSの利用や、個人情報の取扱いに関するトラブルや未然防止も重要な課題となっている。情報モラルや適切な情報活用に関する理解を一層深める必要があり、児童が自ら判断し安全に活用できるよう継続的に啓発していく必要がある。

以上のことから、「不登校支援」「基礎学力の定着」「学びの質の向上」「読書習慣の形成」を重点課題として、学校全体で組織的に取り組む必要がある。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

安心・安全な教育環境の実現と豊かな心の育成

- 毎年度末調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。(R7 2.34%)
- 令和11年度2学期末の校内児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R7 86%)
- 令和11年度2学期末の校内児童アンケートにおける「自分の良いところを見つけることができている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和7年度より増加させる。(R7 81%)
- 令和11年度の小学校学力経年調査の「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和11年度小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を令和7年度より増加させる。(R7 89.3%)
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年増加させる。(R7 50%)
- 令和11年度2学期末の校内児童アンケートにおける「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、ネット(インターネット)を使って、動画を見たり、ゲームやSNSなどをしたりしますか」という項目で、3時間以上と回答した児童の割合を令和7年度より減少させる。(R7 26%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

誰1人取り残さない学力の向上と健やかな体の育成

- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
- 令和7年度、次の各項目について肯定的に回答する割合を令和7年度以上に増加させる。
 - ・「学校では自分の考えをすすんで発表している」(校内児童アンケート) 令和7年度 64%
 - ・「体を動かすこと(運動やスポーツ)が好き」(校内児童アンケート) 令和7年度 88%
 - ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」※もっとも肯定的(経年調査) 令和7年度 48.8%
- 全国体力運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに1.00以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

教育DXの推進、人材の確保・育成としなやかな組織づくり、家庭・地域と連携した教育の推進

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和11年度末に80%以上にする。
- 教員の一人当たり平均時間外勤務時間を令和11年度末に市平均未満にする。
(令和7年度 17時間58分 市平均 20時間27分)
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、令和11年度末に70%以上にする。(令和7年度 67.9%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R7 : 2.34%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R7 : 50.0%)

学校独自の目標

○ 安心・安全な教育環境の実現

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84.5%以上にする。 R7 : 84.4%
- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.6%以上にする。 R7 : 81.5%
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.1%以上にする。 R7 : 81.0%
- ・情報モラル教育の推進を行うために、外部講師を招いた学習活動を実施する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82.3%以上にする。 R7 : 82.2%
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.4%以上にする。 R7 : 86.3%

学校独自の目標

○誰一人取り残さない学力の向上

- ・小学校学力経年調査における、国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
R7 国語 5年 1.07 4年 1.00 3年 0.89
R7 算数 5年 1.16 4年 1.06 3年 0.92
- ・「学校では自分の考えをすすんで発表している」（校内）について、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。 R7 : 64.3%

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、68%以上にする。（令和7年度 67.9%）

学校独自の目標

- ・ 学校外の人材を活用した学習や教員研修会を年6回以上行う。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大領小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R7 : 2.34%)</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R7 : 50.0%)</p> <p>※ 改善とは、次の状態の場合をいう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席日数の増 (学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定含む) 2 ICTの活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。 <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84.5%以上にする。 R7 : 84.4% ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.6%以上にする。 R7 81.5% ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.1%以上にする。 R7 81.0% ・情報モラル教育の推進を行うために、外部講師を招いた学習活動を実施する。 ・校内アンケートで「先生や友だち、地域の人にあいさつをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。 R7 90% 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育の推進】</p> <p>・生活指導全体会で、いじめや虐待に関して気になる児童の実態交流を行い、全教職員で共有していく。</p> <p>指標：・「心の天気」等を活用し、児童の実態の把握に努める。</p> <p>・生活指導部や事例交流会などで、いじめや虐待に関して気になる児童の実態交流を毎月行う。</p> <p>・いじめアンケートにおいて認知したいじめについて、7割以上解消する。</p> <p>・いじめアンケートを年3回以上実施し、早期発見を徹底する。(6・10・1月)</p> <p>・いじめ防止委員会等を必要に応じて開き、いじめを受けた児童の救済を最優先する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育の推進】</p> <p>子どもたちが、友だちや先生と関わり、進んであいさつができるように指導をする。</p> <p>指標：各学級で、あいさつの取り組みを学期に2回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安心・安全な教育の推進】</p> <p>・児童が学校生活を安心して楽しく過ごせるように、各学級で工夫した場設定する。</p> <p>指標：・学級担任だけでなく、生活指導支援員を活用し、さらなる家庭との連携を密にしなが ら、不登校の解決に取り組む。</p> <p>・スペシャルサポートルームを活用し、学校に来にくい児童に対する居場所を作り、学級とのつながりが深められるよう支援員を中心に支援を継続する。</p> <p>・学校に来ない日が7日続いた場合、家庭訪問を実施し家庭との連携を深める。</p> <p>・学校が楽しい場所となるように、各学級で月一回以上、みんな遊びなど、学級で工夫して取り組む。</p> <p>・スクールカウンセラーやこどもサポートネットなどとの連携により、不登校の未然防止や解決を目指す。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>インクルーシブ教育の推進や人権教育研修会への参加をとおして、自分や相手を大切にできる子どもを育成する。</p> <p>指標</p> <p>・校外の人権教育研修会に、年間2回以上参加するとともに、校内で人権教育部会を定期的開催し、学習計画の進捗状況を確認する。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>係や当番活動に積極的に関わり、働くことの大切さが分かる子どもを育成する。(キャリア教育)</p> <p>指標：校内児童アンケートで「係や当番活動などに、すすんで取り組むことができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>多様な体験活動や、ゲストティーチャーを招く学習活動を行うとともに、本物に触れさせることを通して子どもたちの心を豊かにする。</p>	

大阪市立大領小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標」</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82.3%以上にする。 R7 82.2%</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86.4%以上にする。 R7 86.3%</p> <p>学校独自の目標</p> <p>○誰1人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、国語と算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 <p>R7 国語 5年 1.07 4年 1.00 3年 0.89 R7 算数 5年 1.16 4年 1.06 3年 0.92</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校では自分の考えをすすんで発表している」(校内) について、肯定的に回答する児童の割合を昨年度より増加させる。 R7 64.3% 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰1人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールアドバイザーを活用し、算数の時間を中心とした校内研修を充実させ、教員の指導力向上をめざす。 ・研究授業や研修会への参加を通して、協働的な学習や問題解決的な学習の指導力の向上を図る。 <p>指標：・全学年が年1回授業研究に取り組む。また、校内研修を年3回以上行う。 ・全教員が、一人1回原則として公開授業を行う。ただし、研究授業を兼ねてもよいこととする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰1人取り残さない学力の向上】</p> <p>英語教育の充実を図る。</p> <p>指標：・週2回のモジュール学習など、英語教育の強化を図る取り組みを行い、校内児童アンケートで「英語の学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 R7 92%</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体育科の学習、体育的行事や学級活動での遊びなどにおいて継続的に体力の向上にむけた取り組みを行い、児童の体力向上への意欲を高める。</p> <p>指標：・各学級で月1回以上、学級遊びに取り組む。 ・年に2回以上、各学級で、なわとびや持久走などの「がんばりカード」を用いて、体力向上の取り組みを行う。</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>清潔検査等を実施し、児童が健康で衛生的な生活を営むことができるように指導する。</p> <p>指標：校内児童アンケート「ハンカチ・ティッシュを毎日持ってきている」「つめの手入れができている」で、肯定的な回答を行う児童の割合を90%以上にする。 R7 94%</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>「給食だより」「食育通信」「栄養教室」「給食カレンダー」「給食ニュース」、強調週間などを通して食に関心をもたせ、残さず時間内に食べるよう指導する。</p> <p>指標：校内児童アンケート「給食では、苦手なものもがんばって食べようとしている」で、肯定的な回答を行う児童の割合を90%以上にする。 R7 93%</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

【取組内容について】

【次年度へ向けて】

大阪市立大領小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標 (施策目標) を達成するための年度目標」</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○ 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、68%以上にする。 (令和7年度 67.9%)</p> <p>学校独自の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校外の人材を活用した学習や教員研修会を年6回以上行う。 	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>デジタル教材やデジタルドリル等を効果的に活用し、個別最適な学びを実現すると共に、学習者用端末活用ガイドブックに沿って、それぞれの学年に必要なスキルを身につけさせる。</p> <p>指標：・ICTを積極的に活用しながら、効果的な実践方法を探求する。</p> <p>・タイピングソフトやデジタルドリル、まなびのポータル内のアプリ等の活用を通して、体系的な情報活用能力を育成する。</p> <p>・教員へのICT研修を年3回以上行い、教員のICT活用能力のさらなる向上を図る。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>・個々で働き方の見直しを図り、教職員の時間外勤務時間を減少させる。</p> <p>指標：・「ゆとりの日」を週1回設定・実施し、一人一人が守る努力をする等、時間外勤務減少に努め、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の割合を昨年度より増加させる。</p> <p>R7 基準1 85.71% 基準2 97.62%</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>読書タイムの設定や図書開放、ボランティアの方の読み聞かせ等の取り組みを行って児童が読書をする機会を確保し、本を読む習慣がつくようにする。学習者用端末のアプリを活用して興味関心を高める。</p> <p>指標：・児童アンケート (校内) で「読書をするのが好き」の項目で肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→R7 79%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>保護者や地域住民に開かれた学校づくりを行う。</p>	

指標：出前授業やゲストティーチャー等を活用し、学習に取り組む。
週3回以上、各学年の様子をホームページに掲載する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

【取組内容について】

【次年度へ向けて】

※ 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の割合を基準1・基準2とは

基準1 1か月の時間外勤務が45時間を超えない、かつ1年間の時間外勤務が360時間を超えない。

基準2 1年間の時間外勤務が720時間以下、時間外勤務が45時間を超える月が6月以下、時間外勤務が45時間を超える月が0、直近2～6か月の時間外勤務の平均が80時間を超える月を0、をすべて満たす。